

平成 27 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 27 年 12 月 12 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教授

申 請 者 名 鈴木裕美子

助成事業の区分 (該当するものに○ 印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・○学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	第 6 7 回舞踊学会大会
事業実施期間	平成 27 年 12 月 5 日 ～ 平成 27 年 12 月 6 日
成果の概要	<p><参加者> 132 名 一般会員(58+当日 11) 69 名 学生会員(9+当日 3) 12 名 その他 29 名</p> <p><テーマの設定> 「福島民俗文化」 震災後、生活基盤が安定しない状況におかれても、民俗文化を復興させていった原動力は何か、福島県を中心に、被災地の民俗文化の現状と復興について報告を受け、人々の暮らしの中で民俗文化や民俗文化がどのように根付いていたのか、そして、今後どうなっていくのか、一般研究発表(23 題)、特別講演、体験ワークショップ(2 つ)、シンポジウムをとおして議論を深めた。</p> <p><成果> ①全国的にも豊かな福島の舞踊文化を伝えた。 ②震災による悲惨な実態が具体的に報告された。 ③芸能が社会を復興させる構図が浮き彫りになった。 ④若い世代から重鎮にいたるまで各々の研究成果を交流した。 ⑤理論の追究と実技(ワークショップ)の体験の両方ができた。 ⑥ワークショップは、会津、いわきの保存会のみなさんに指導していただいた。 ⑦民俗文化研究の第一人者を講師に、特別講演、シンポジウムを開催することができた。 ⑧学術振興基金の助成を得たことで、県内の教師・福島大学関係者を参加費無料で招待することができた。助成金は、大会封筒印刷費、抄録集印刷費に充てた。 ⑨福島大学の学生・院生の参加があり、地元の文化について認識させることができた。 ⑩新聞に掲載された。(朝日新聞、福島民友新聞、河北新報) ⑪大会の報告は『舞踊学』第 38 号 pp.75- 115 に掲載された。 ⑫午後の企画は DVD に編集され、講師、学会事務局、実行委員など、関係者に配付された。 ⑬懇親会では、うつくしま福島未来支援センター長の中田スウラ教授に福島大学の取り組みを報告していただいた。 ⑭福島市観光コンベンション推進室の協力を得て、福島県の観光パンフレットを参加者に渡すことができた。 ⑮実行委員は広域から協力が得られた。</p>

<p>事業の内容</p>	<p>実行委員会：実行委員長：鈴木裕美子 委員：村田芳子（担当理事、筑波大学）、古井戸秀夫（東京大学）、一柳智子（郡山女子大学短期大学部）、山梨雅枝（仙台大学）、茅野理子（宇都宮大学）、村越直子（武庫川女子大学）</p> <p>第1日目 <福島の民俗芸能：民俗文化と教育> 総合司会 福島大学 教授 鈴木裕美子 司会 筑波大学 教授 村田芳子 第一部 特別講演 福島県文化財保護審議会副会長 懸田弘訓 講演① 「福島 of 民俗芸能」 講演② 「福島 of 民俗文化と教育」 第二部 体験ワークショップ ① 会津のかんしょ踊り ② いわきのやっちき踊り</p> <p>第2日目 <震災と復興> 総合司会 福島大学 教授 鈴木裕美子 司会 東京大学 教授 古井戸秀夫 基調報告 福島県文化財保護審議会副会長 懸田弘訓 「福島 of 震災と復興」 シンポジウム 「研究の現在」 報告① 成城大学 准教授 俵木 悟 「災害後の生活と民俗調査の効用」 報告② 追手門学院大学 教授 橋本裕之 「支援から協働へー民俗芸能を復興する／させる方法・序説ー」 コメンテーター 福島県文化財保護審議会副会長 懸田弘訓</p>
<p>添付資料</p>	<p>抄録集 『舞踊学』第38号 新聞記事</p>

「やっちき踊り」体験や講演 福島で舞踊学会大会

福島民友新聞 12月6日(日)9時32分配信



体験ワークショップで「いわきのやっちき踊り」を学ぶ参加者たち

第67回舞踊学会大会は5日、「福島の民俗芸能」をテーマに福島市の福島大で開幕した。6日までの2日間、本県を中心に被災地の民俗芸能の現状と復興についての報告や、今後の方向性などを考える。

舞踊学会（柴真理子会長）の主催で復興支援などを目的に本県で初めて開かれた。全国から舞踊学研究者ら約80人が参加した。

初日は一般研究発表の後、県文化財保護審議会委員で民俗芸能学会福島調査団長の懸田弘訓さんが

「福島の民俗芸能」「福島の民俗文化と教育」と題して講演。映像記録で本県の民俗芸能などを紹介した。引き続き体験ワークショップが行われ、参加者が、それぞれの地元保存会の指導で「会津のかんしょ踊り」と「いわきのやっちき踊り」を学んだ。

最終日の6日は、懸田さんの「福島の震災と復興」と題した基調報告や「研究の現在」をテーマにしたシンポジウムなどが開かれる。

最終更新:12月6日(日)9時32分

福島民友

民俗芸能 心の支えに

12/8 (火)

2015年12月8日10時23分



上高久青年会による「じゃんがら念仏踊り」=8月14日、いわき市平、小島泰生撮影

●被災地の現状、研究者ら報告 担い手構成に変化も

ダンスや、地域に古くから伝わる踊りの研究者らで組織する舞踊学会（柴真理子会長）の大会が5、6の両日、福島大学で開かれた。福島ゆかりの研究者たちは、東日本大震災による津波や福島第一原発事故の被災地で民俗芸能が住民の生きがいを取り戻す契機になっている一方、担い手の避難で存続が危機にある状況を訴えた。

民俗芸能学会福島調査団長の懸田弘訓（ひろのり）さんは、約50年前から福島の民俗芸能を研究している。震災後、仮設住宅や借り上げ住宅に避難する住民たちから聞き取り調査した成果を報告した。

浜通りに約430あった民俗芸能の活動団体のうち、代表者の住所が確認できているのは約350。このうち6割が担い手不足から継承の危機にあるという。

震災後の新たな動きとして、女性にも門戸を広げたり、子どもだけだった行事に大人が混じるようになったりした事例を紹介。浪江町請戸地区の「田植踊（たうえおどり）」が福島市の仮設住宅で披露されたことに触れ、「住民にとって『ふるさと』そのものの祭りや芸能が形を変えて存続している」と述べた。

津波で被害を受けながらも獅子舞を翌年復活させた相馬市磯部地区では、「家も家財道具もなくなってしまった。このうえ獅子舞がなくなったら何が残るんだ」という声を聞いたという。懸田さんは「被災した人たちの生きがい、共同体を維持する核になっている」と話した。

いわき市出身で東京外国語大学非常勤講師（民族舞踊）の亀谷真知子さんは、浜通り地域などに伝わる「じゃんがら念仏踊り」の現状を報告した。

いわき市内では8月のお盆の時期に多くの団体が踊っている。双葉町と楡葉町の住民たちも震災後、公演することができた。

しかし、双葉町と同じく中間貯蔵施設の予定地で全町避難が続く大熊町では、まだ復活していない。亀谷さんは「復活に向けて研究者や行政、民間が一体となって考えなければならぬ」と訴えた。

舞踊學

第38号

CHOREOLOGIA

NO.38

2015

論文

20世紀初頭の「タンツテアター」	柴田隆子	1
バレエ「大紅灯笼高高掛」に見られる中国的要素と人物造形	郭琦琪	10
チャイコフスキー記念東京バレエ学校「白鳥の湖」-「白鳥の湖」ソ連上演史のコンテクストにおける位置づけ	齋藤慶子	20
「動き/身体」の哲学—大野一雄の舞踏における技法の革新性	宮川麻理子	33
コンテンポラリーダンスにおける振付創作過程の解明	中野優子・岡田猛	43

資料紹介

「ハラキリ」舞踊と「バリ」舞踊 —戦前フランス映画に残された芦田栄と小森敏の舞姿—	北原まり子	56
--	-------	----

書評紹介

竹村嘉晃著「神霊を生きること、その世界」	石井達朗	64
書籍紹介		66

舞踊学会40周年特別企画

松本千代栄先生に聞く		69
------------	--	----

第67回舞踊学会大会報告

特別公演「福島の民俗芸能」	懸田弘訓	79
体験ワークショップ		86
基調報告「福島の震災と復興」	懸田弘訓	88
シンポジウム報告①「震災後の生活と民俗調査の効用」	俵木悟	99
シンポジウム報告②「協働する共同体へ—民俗芸能を復興する/させる可能性—」	橋本裕之	106
「震災と復興」シンポジウム —研究の現在—	懸田弘訓・橋本裕之・俵木悟・古井戸秀夫	113

第20回定例研究会報告

若手研究者によるシンポジウム「アジアにおける伝統の再創造と再構築」概要報告		119
「伝統」を支える多元的位相—シンガポールにおけるインド舞踊の発展と国家	竹村嘉晃	120
民主化後の「伝統文化」の継承—モンゴルの「ツァム・ダンス」を事例として	木村理子	138
「男芸」から「女芸」へ—女性舞踊家のオーラル・ヒストリー—	波照間永子	146
第一部 討論		155
インドの「伝統的な」マーシャルアーツ、カラリパヤットをめぐる現状	高橋京子	160
伝統の再創造と再構築—ピチエ・クランチェンとタイのコンテンポラリーダンス—	岩澤孝子	165
第二部 討論		177

2014(平成25)年度「研究奨励賞」選考結果報告・選考規定		183
--------------------------------	--	-----

2015(平成26)年度日本学術会議活動報告		184
------------------------	--	-----

2014(平成25)年度学会活動報告		185
--------------------	--	-----

2014(平成25)年度舞踊学関係博士論文・修士論文題目一覧		188
--------------------------------	--	-----

個人情報取扱規定		189
----------	--	-----

Articles

"Tanztheater" in the early 20 th Century	Takako SHIBATA	1
The Chinese Elements of the Ballet "Raise the Red Lantern" and the Role Characterization	Qiqi KAKU	10
"Swan Lake" of the Tchaikovsky Memorial Tokyo Ballet School — Its Placement in the Context of the Soviet Union's "Swan Lake" Performance History —	Keiko SAITO	20
"The Philosophy of movement and body: The Novelty of Techniques in Kazuo Ohno's Butoh" The Process of Creating Choreography in Contemporary Dance	Mariko MIYAGAWA Yuko NAKANO, Takeshi OKADA	33 43

Material introduction

"Hara-kiri" and "Balinese" dances: Ashida Sakae and Toshi Komori, two Japanese dancers in prewar French films.	Mariko KITAHARA	56
--	-----------------	----

Book Review

Yoshiaki Takemura: Those Who Live as God, and Their Social World	Tatsuro ISHII	64
Book Review		66

Special Interview with Chiyoe Matsumoto

		69
--	--	----

Report on the 67th Annual Conference of the Japanese Society for Dance Research

Overview: Fukushima's Folk Performing Arts	Hironori KAKETA	79
Workshop		86
Keynote Address: Earthquake and Reconstruction in Fukushima	Hironori KAKETA	88
Life after the great and the effect of research on folk culture	Satoru HYOKI	99
Toward Cooperating Communities of Practice: the Possible Way to Restore Folk Performing Arts	Hiroyuki HASHIMOTO	106
Symposium: Earthquake and Reconstruction		113

Report on the 20th Regular Meeting of the Japanese Society for Dance Research

Symposium for Young Researchers: Recreation and Reconstruction of Tradition in Asia	Kyoko KAWASHIMA and Mieko MARUMO	119
The Importance of Multi-dimensional Aspects Contributing to the Development of Traditional Indian Dance in the Nation of Singapore	Yoshiaki TAKEMURA	120
"Tsam Dance of Mongolia" as an example of the successions of "Traditional culture" after Democratic Reforms	Ayako KIMURA	138
The Shift from Male Performers to Female Performers in Okinawan Traditional Dance: An Oral History of Female Dancers	Nagako HATERUMA	146
Session 1 Discussion		155
The Present Situation of the Indian 'Traditional' Martial Art of Kalarippayattu	Kyoko TAKAHASHI	160
Recreation and Reconstruction of Tradition: Pichet Klunchun and Thai Contemporary Dance	Takako IWASAWA	165
Session 2 Discussion		177

The JS DR (Japanese Society for Dance Research) Young Researcher Award 2014		183
---	--	-----

Report on the Activities of Divisions of the Science Council of Japan, 2015		184
---	--	-----

Report on the Activities of the Society for Dance Research, 2014		185
--	--	-----

Index: The Titles of Master's Theses/Doctoral Dissertations on Dance, 2014		188
--	--	-----

Regulations on Handling Personal Data		189
---------------------------------------	--	-----

2015

舞踊学会

Japanese Society for Dance Research

Published by

Japanese Society for Dance Research

Tokyo, Japan

第67回舞踊学会大会 「福島の民俗芸能」

【企画趣旨】

福島には、「会津磐梯山」「じゃんがら念仏踊り」「檜枝岐歌舞伎」など、数多くの民俗芸能が継承されています。

2011年3月11日、東日本大震災の影響で、福島県沿岸部にある民俗芸能の6割にあたる約230団体が活動を休止し、伝統が途絶える危機にさらされました。特に津波の被害が大きかった沿岸部の浜通り地区では約400団体が活動していましたが、震災後に最多で約260団体が休止しました(2014年5月27日、朝日新聞)。原発事故による避難生活が引き金になったり、津波の影響で道具が流されたり、指導者が亡くなったりするなど、大きなダメージを受けましたが、翌年には復活した団体、帰宅が困難なため避難先で復活の準備をしている団体もあります。

生活基盤が安定しない状況におかれても、民俗芸能を復興させていった原動力は何か、福島県を中心に、被災地の民俗芸能の現状と復興について報告を受け、人々の暮らしの中で民俗芸能や民俗文化がどのように根付いていたのか、そして、今後どうなっていくのか、皆様とともに考えていきたいと思います。

■期日：2015年(平成27年)12月5日(土)・6日(日)

■会場：福島大学 大学HP <http://www.fukushima-u.ac.jp/>

(新幹線「福島」駅乗換、JR「金谷川」駅下車、徒歩10分)

■主催：舞踊学会(会長 柴真理子) <http://www.danceresearch.ac>

■後援：福島県教育委員会、福島市教育委員会、福島大学

■全体スケジュール：

12月5日(土)		12月6日(日)	
9:30~ 受付 L4	9:30~ 受付 L4	10:00~12:00 一般研究発表 第1会場 L2	10:00~12:00 一般研究発表 第2会場 L3
10:00~12:00 一般研究発表 第1会場 L2	10:00~12:00 一般研究発表 第2会場 L3	12:00~13:30 昼食 大学会館1階食堂、L1~L4 理事会 M3	12:00~13:00 昼食 L1~L4
<福島の民俗芸能：民俗文化と教育> 総合司会 鈴木裕美子 司会 村田芳子 13:30~15:00 L4 第一部 特別講演 懸田弘訓 講演① 「福島の民俗芸能」 講演② 「福島の民俗文化と教育」 15:20~16:00 第1体育館 第二部 体験ワークショップ ① 会津のかんしょ踊り ② いわきのやっつき踊り 16:20~17:20 総会 L4 17:40~19:00 懇親会 大学会館2階「グリーン」		<震災と復興> 総合司会 鈴木裕美子 司会 古井戸秀夫 13:00~14:00 L4 基調報告 懸田弘訓 「福島の震災と復興」 14:10~16:00 L4 シンポジウム 「研究の現在」 報告① 俣木 悟 「災害後の生活と民俗調査の効用」 報告② 橋本裕之 「支援から協働へ—民俗芸能を復興する／させる方法・序説—」 コメンテーター 懸田弘訓	

第1日目：12月5日(土)

■9:30~ 受付開始 [L4]

■10:00~12:00 一般研究発表 [各発表15分・質疑5分]

【第1会場 L2】

予定時刻	氏名	所属	題目	座長
10:00~	木場裕紀	東京大学(院)	アメリカ高等教育における舞踊の歴史：ウィスコンシン大学マディソン校を事例として	松澤慶信 (日本女子体育大学)
10:20~	藤田明史	関西学院大学(院)	映像・言葉・身体 -フォーサイスと舞踊記録-	
10:40~	小島理永 野村照夫 来田宣幸	大阪大学 京都工芸繊維大学 京都工芸繊維大学	ヒップホップダンスのステップにおける楽しさの表現 -ニュージャックスイングに着目して-	高橋るみ子 (富崎大学)
11:00~	柳原健二	岡山大学(院)	表現運動・ダンス授業における「恥ずかしさ」の言説に関する研究	
11:20~	鈴木純 村田芳子	筑波大学(院) 筑波大学	ダンス必修化による中学校の授業の実態 -創作ダンスと現代的なリズムのダンスに着目して-	
11:40~	村上恭子	愛知東邦大学	創作ダンスの授業における否定的イメージを持つ生徒の変容	

【第2会場 L3】

予定時刻	氏名	所属	題目	座長
10:00~	萩原大河 関典子 國土将平	神戸大学(院研究生) 神戸大学 神戸大学	動作因果関係を考慮したダーンの評価観点の検討	森立子 (日本女子体育大学)
10:20~	今井静香	岡山大学(院)	オイリュトミー経験がダンサーに与える影響	
10:40~	伊藤萌子 石崎雅人	東京大学(院) 東京大学	クラシックバレエ鑑賞における経験者と未経験者の違いの分析-視覚パターンと言語的印象の観点から-	外山紀久子 (埼玉大学)
11:00~	岡千春	東京成徳大学	舞踊する身体における自己の客体化について	
11:20~	木村 寛	日本女子大学	ノヴェールのバレエ理論における優美とピュグマリオンの欲望	
11:40~	柿沼美穂	国立環境研究所	動きを言語化する -運動感覚の言語化の試みとその意味-	

■12:00~13:30 昼食(理事会 【M3】)

■13:30~16:00 <福島の民俗芸能：民俗文化と教育> 総合司会 鈴木裕美子
司会 村田芳子

13:30~15:00 第一部 特別講演 懸田弘訓 【L4】

講演① 「福島の民俗芸能」
講演② 「福島の民俗文化と教育」

15:20~16:00 第二部 体験ワークショップ 【第1体育館】

① 会津のかんしょ踊り
② いわきのやっつき踊り

■16:20~17:20 総会 [L4]

■17:40~19:00 懇親会【大学会館2階「グリーン」】

第2日目：12月6日（日）

■9：30～ 受付開始 【L4】

■10：00～12：00 一般研究発表 [各発表15分・質疑5分]

【第1会場 L2】

予定時刻	氏名	所属	題目	座長
10：00～	中野優子 清水大地 岡田 猛	東京大学（院） 東京大学 東京大学	大学生を対象とした即興ダンス授業実践の教育的効果 ～表現活動や日常生活における学生の心理的変容に着目して～	八木ありさ （日本女子 体育大学）
10：20～	野邊麻衣子 西田英司	宮崎大学教育 文化学部附属小学校 宮崎大学教育 文化学部附属中学校	表現・創作ダンスとアクティブ・ラーニング	
10：40～	高橋るみ子 野邊杜平	宮崎大学 宮崎大学（院）	表現運動・ダンスにおける複数の指導者（外部指導者を含む）による効果的な指導のあり方	
11：00～	向出章子	奈良女子大学（院）	表現運動の授業の前後に見る友人関係の意識の変化	村田芳子 （筑波大学）
11：20～	鈴木瑛貴	お茶の水女子大学（院）	身体表現活動における保育者と子どものかかわり合い ～PAC分析と映像記録に基づいて～	
11：40～	大橋さつき	和光大学	福島の親子を対象とした「創造的身体表現遊び」の実践	

【第2会場 L3】

予定時刻	氏名	所属	題目	座長
10：00～	阪本麻都	四国学院大学	大学におけるアーティスト・イン・レジデンスの可能性 ～日独共同制作公演SARPvol.9 “...unter dem Himmel ist der Wind...” 実践報告～	貫 成人 （専修大学）
10：20～	豊福彬文 矢吹修一	んまつーポス いわき芸術文化 交流館アリオス	いわき芸術文化交流館アリオスと《んまつーポス》が 探ったダンスアウトリーチの在り方	
10：40～	岩澤孝子	北海道教育大学	タイ・コミュニティ教育における伝統芸能の役割	
11：00～				古井戸秀夫 （東京大学）
11：20～	木村はるみ	山梨大学	災害と芸能 ～実演芸術の果たす役割～	
11：40～	亀谷真知子	東京外国語大学	福島県じゃんがら念仏踊りの伝承 ～歴史と東日本大震災後の取り組み～	

■12：00～13：00 昼食 【L1～L4】

■13：00～16：00<震災と復興> 総合司会 鈴木裕美子
司会 古井戸秀夫

13：00～14：00 基調報告 懸田弘訓「福島の震災と復興」【L4】

14：10～16：00 シンポジウム「研究の現在」【L4】

報告① 俵木 悟「災害後の生活と民俗調査の効用」

報告② 橋本裕之「支援から協働へー民俗芸能を復興する／させる方法・序説ー」

コメンテーター 懸田弘訓

『舞踊學』投稿規定

1. 投稿資格は、舞踊学会会員、もしくはファーストオーサーが舞踊学会会員であることとする。
2. 投稿内容は、未発表の、舞踊学関係の論文・研究報告・資料紹介とする。
3. 投稿論文は、完結したものとする。
4. 投稿原稿は、編集委員会において採否を決定する。
5. 原稿は、日本語により、横書とする。ただし外国語の単語、英文の引用は例外とする。
6. 原稿枚数は、400字×50枚を限度とする（図表を含む）。ただし、研究報告は、400字×30枚以内（図表を含む）。
7. 原稿には、執筆者名・表題のローマ字表記を付し、さらに英文の表題および抄録を付する。
8. 原稿は、完全原稿であること、図・表は、版下になりうるもの。欧文の引用はタイプによることを原則とする。
9. 原稿には、コピー3部を添付する。コピーによる不鮮明な図・表は原図2部を提出する。
10. 原稿料は支払わない。
11. 原稿締切は、その年度の3月31日とする。
12. 原稿の提出先は、舞踊学会事務局内『舞踊學』編集委員長宛とする。
13. 上記以外のことで、本誌に関する事柄については、編集委員の決定に委ねる。

以上
〔2003年3月改訂〕
〔2007年12月改訂〕

舞踊学会役員（平成25年度 - 平成27年度）

名誉会長	松本千代栄
会長	柴眞理子
副会長	貫成人
常務理事	尼ヶ崎彬, 猪崎弥生, 遠藤保子, 古井戸秀夫, 松澤慶信, 丸茂美恵子
理事	大貫秀明, 岡本悦子, 國吉和子, 杉山千鶴, 外山紀久子, 三浦雅士, 村田芳子, 森立子, 八木ありさ, 唐津絵理（25年度学会大会指名理事）, 原田奈名子（26年度例会担当指名理事）, 鈴木裕美子（27年度学会大会指名理事）, 高橋るみ子（28年度学会大会指名理事）
監査	島内敏子, 寺山由美

編集委員会

編集委員長	古井戸秀夫
編集委員	國吉和子・杉山千鶴・寺山由美・外山紀久子・波照間永子・武藤大祐

編集後記

『舞踊學』第38号をお届けします。今号には、論文9点、資料紹介1点、計10点の投稿がありました。査読の結果、論文5点、資料紹介1点、計6点を掲載することができました。査読、再査読とご審査をしていただきました会員の皆様に感謝いたします。お忙しい中、書評、資料紹介をご執筆くださいました会員の皆様にも改めて御礼を申し上げます。

舞踊学会も、創立40周年を迎えました。特別企画「松本千代栄先生に聞く」は、その記念として企画されたものです。会員の安村清美さんには、インタビューから原稿の作成まで、全面的なご協力をいただきました。また、お茶大の卒業生の有川いずみさんにもお世話になりました。記して御礼を申し上げます。

編集委員会も、これで任期を全うさせていただきます。編集委員の皆様、3年間ほんとうにありがとうございました。

舞踊学編集委員長 古井戸秀夫

舞踊學 38号

平成28年3月25日印刷
平成28年3月31日発行

編集・発行	舞踊学会 URL http://www.danceresearch.ac.jp
事務局	〒157-0061 東京都世田谷区北烏山8-19-1 日本女子体育大学 松澤研究室 Tel&Fax : 03-3300-2423 danceresearch.info@kagoya.net
印刷所	佐藤印刷株式会社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-10-2 TEL 03-3404-2561 FAX 03-3403-3409